圭陵會々報

発行所
岩手医科大学圭陵会
〒020-8505盛岡市内丸19の1
Tel 019(651)5111番
Fax 019(624)8380番
E-mail:info@keiryokai.gr.jp
URL http://www.keiryokai.gr.jp
題字 三田定則 先生書
発行人 石川 育成
編集人 前沢 千早
印刷所 山口北州印刷

1 月 号

岩手医科大学エネルギーセンター建設工事起工式
（平成26年11月一日、関連記事26頁）

目次

新年のご挨拶　圭陵会会長　石川育成…1
理事長・学長　小川　彰…2
定年退職される教授…3
教授就任ご挨拶…7
国内医大視察と討論の会…9
岩手医科大学二〇周年記念事業…11
学術振興会研究助成・褒賞募集…12
圭陵会本部だより…14
圭陵会・医歯同窓会今後の予定…16
医学部同窓会だより…18
新年のご挨拶　会長　齊藤和好…21
歯学部同窓会だより…24
新年のご挨拶　会長　城　茂治…26
薬学部同窓会局だより…27
エネルギーセンター建設着手…28
谷口　繁先生ご逝去…29
東医体・全歯体等報告…30
医大祭の開催…
お祝い・ご逝去・編集後記…

新年のご挨拶

圭陵会会長　石川育成

年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸を心から祈念いたします。

岩手県立図書館収蔵の文献を基にして、岩手医科大学創立の年を『岩手医学講習所』が開設された『明治三十年』とする提案につきましては、一昨年の代議員会・総会において小川　彰理事長より提出され、その後、圭陵会各支部・幹事会等において議論・了承の上、昨年三月の大学理事会において正式に決定されました。

これを受けて、従来から進めております『総合移転整備事業』を包括した『創立一二〇周年記念事業』として昨年六月より展開しております。

創立一二〇周年を二年後の平成二十九年四月に控えたその記念事業の中には、本学の総合移転整備の最終事業として平成三十一年春の運用開始をめざす『矢巾新附属病院の建設』、『内丸メディカルセンターの整備』、学校法人岩手女子奨学会より移管を受ける岩手看護短期大学を母体とした『看護学部の新設』等が予定されております。

既に昨年十一月には新附属病院やドクターヘリ基地等に電力を供給する『エネルギーセンター』の建築に着手致しました。また、新たな事業として加わった『看護学部』についても設置に向けてスタートしており、平成二十九年春には「医学部」「歯学部」「薬学部」に「看護学部」が加わり四学部体制となります。全国にも例を見ない医系の全ての学部を持つ医系総合大学となり、さらなる発展が大いに期待されるところであります。

母校岩手医科大学が『創立一二〇周年記念事業』を完結させて、未来に大きくはばたくためには、全ての大学関係者、全ての圭陵会員の協力が何としても必要であります。会員の皆様方の絶大なご理解とご支援をお願い申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

岩手医科大学　名誉教授
圭陵会　元幹事長・元副会長・顧問
圭陵会医学部同窓会　元会長

谷口　繁　先生ご逝去

谷口　繁先生には10月中旬から体調を崩され、11月6日の午前10時ご逝去になられました。80才でした。

先生は昭和35年3月に岩手医科大学を卒業（医学部第9期）、本学附属病院にて実地修練終了後、昭和36年4月に本学大学院入学、同40年3月同大学院修了、同年4月本学医学部小児科学講座助手、同講師・同助教授を経て、昭和55年12月の岩手県と本学の共同事業である岩手県高次救急センター設立と同時に同センター助教授に就任、平成元年4月には同センター内科系教授、平成7年4月には同センター副センター長を兼任されました。

谷口　繁先生は本学在籍期間の昭和36年から定年退職をされた平成13年までの40年間にわたり、小児科学講座時代から一貫して小児腎臓学および内分泌学を中心とした診療・研究に当たられ、また高次救急センターに移られてからは自ら救急医療現場の先端に立たれ、岩手医科大学高次救急センターの黎明期を築かれ、岩手医科大学高次救急センターを東北・北海道では唯一のそして全国有数の高度救命救急センターに育成されました。

さらに、谷口　繁先生は圭陵会の運営に昭和37年より52年間の長きにわたり指導的役割を担ってこられ、圭陵会幹事、幹事長、副会長、顧問として、また圭陵会医学部同窓会副会長、同会長の役職を歴任され、圭陵会そして圭陵会医学部同窓会の発展のために尽力されました。

ここに谷口　繁先生のご功績に感謝を申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

なお、告別式は平成26年11月15日に盛岡グランドホテルにて執り行われました。